



早いもので、今年も残すところ1ヶ月を切ってしまいました。  
今年出来る事は今年のうちに片付けておきたいものですね。



税務情報

確定拠出年金と税額控除

確定拠出年金は拠出する掛金は一定ですが将来受け取る年金が掛け金の運用次第で違って来る年金です。

この制度のメリット

運用方法を各加入者が決めることができる。  
年金資産が加入者ごとに管理されるので、各加入者が常に残高を把握することができる。

デメリット

自己責任の年金  
原則60歳まで引き出しができない。

確定拠出年金の税制

掛け金の支払	個人は全額所得控除、 企業は損金参入
運用段階	運用収益には課税されない
老齢給付金	公的年金等控除が適用される

詳しくは郵便局の確定拠出年金のページ  
(<http://dcplan.japanpost.jp/>)等御参照下さい。

--PC豆知識--



いろいろつながるUSBインターフェース

パソコンに必ずといっていいほどあるUSBインターフェース。このインターフェースにはいろいろな周辺機器を接続できます。

例を挙げると、キーボード、マウス、プリンタ、CD-ROM(RW)、デジカメ、USBメモリ、無線LANなどなど・・・携帯電話の充電なども、専用接続ケーブルで可能です。

USBインターフェースには1.1と2.0があり、伝送速度が速いほうが2.0になります。接続する機器によっては、2.0のほうが望ましい場合もありますが、通常利用する場合、1.1でも十分な速さがあります。

通常はPCに2つ位インターフェースが付いていますが、便利なので、時々USBのコネクタが足りなくなることもあります。USBは、最大128個まで、接続できるので、市販のUSBハブを購入すると、ポート不足に悩まずに済みます。



この差込口をPCにセットします

所長の今月のコラム

ダブルないしはトリプルスタンダード

企業の生存について30年説があるが、銀行等のような社会性、公共性の強い企業は「企業の永続性」が何物にも換え難いその使命とされており、企業としての永続性を担保するものは半期、1年毎の決算数字以外にない。

わが国には企業が100万社余存在するといわれているが、各社の決算に当たっては決算のための基準が現実には2つ存在する。1つは税法基準であり、1つはいわゆる会計基準である。前者は課税の公平を前提とした税法規程を基準にし、後者は経営の実態を的確に反映させようとする基準であり、特に、資産についてその換価性、換価価値などを前提にして資産の評価損益、債権の回収可能性、会計基準による決算結果としての先払い税金の回収可能性などを反映した基準である。街の企業は代表者などが経営について個人的に全責任を負っており、一般的には税法基準が採用されており、大きな問題はない。一方、大企業は会計基準の採用を義務付けられている。

しかし、会計基準については債権や先払い税金の「回収可能性」という言葉からも理解できるように、可能性の判断において恣意性が働くことになる。もともと、会計の世界には「保守主義の原則」があるので、この原則が前提になれば倒産などということにならず社会的存在としての企業の責任を果たせる確率が高くなる。

所詮、税法や基準などというのは社会の、円滑な社会運営のための約束事であり、世の中の変化に応じて変化していくことになるが、大事なのは何時の世の中でも変わらない「倫理観」であり、「倫理観」に裏付けられた価値判断であり、行動ではないだろう。

確定申告の準備を忘れずに!



光陰矢のごとし、本当に一年は早いものです。確定申告用の資料は、整理していらっしゃるでしょうか?大切な資料を紛失しないよう、日ごろから気をつけておきましょう。

以下に、注意事項をいくつか挙げておきますので、ご参考までに御一読ください。

- ・配偶者や扶養親族等に異動はないか
- ・申告所得の証明書類はあるか

ex. 事業収入

- 不動産収入
- 給与収入
- 年金収入
- 保険等の満期返戻金
- 株の譲渡等

- ・所得控除、税額控除の証明書類はあるか

ex. 盗難、災害等の損害

- 一定額以上の医療費
- 国民健康保険、国民年金等の領収書
- 小規模企業共済等の証明書
- 生命保険料の証明書
- 損害保険料の証明書
- 新規住宅取得の場合、住宅購入の証明書他